

小 学 校

平成 30 年度

# 教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

## 目 次

|     |           |    |
|-----|-----------|----|
| I   | 研究主題設定の理由 | 1  |
| II  | 目指す児童像    | 3  |
| III | 研究仮説      | 3  |
| IV  | 研究の視点     | 3  |
| V   | 研究の内容     | 6  |
| VI  | 研究の成果と課題  | 23 |

## 研究主題

# 思いをもって主体的に創造する児童の育成

～「もの・こと」、「人」との対話の充実を通して～

## I 研究主題設定の理由

### 1 図画工作科で育成すべき資質・能力について

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）では、図画工作科における目標の三つの柱を以下のとおり示している。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

また、小学校学習指導要領解説図画工作編（平成 29 年 7 月）では、「3つの柱それぞれに『創造』を位置付け、図画工作科の学習が造形的な創造活動を目指している。」ことや「文化や生活、社会そのものをつくりだす態度の育成につながる視点を大切にしている。」ことを示している。

### 2 共に学び高め合う場の設定に係る課題について

「平成 24 年度 小学校学習指導要領実施状況調査 教科別報告書（図画工作）」（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 27 年 2 月）には、共に学び高め合う場を充実させるための課題として、次のことが報告されている。

- 児童が自分や友達の表し方や感じ方のよさや違いに気付き、活動を通して共感したり、多様性を感じ取ったりすることができるようにすること。
- 鑑賞の活動では、感じたことや思ったことを話したり、友達と話し合ったりすることによって、様々な感じ方があることを知り、共に鑑賞の能力を高め合うような指導を工夫すること。
- 共同してつくりだす活動を適宜取り入れ、様々な発想やアイデア、表し方などがあることにお互い気付き、それぞれの児童の資質・能力を高め合うようにする。その際、一人一人の考えを尊重したり、自分の考えと友達の考えを調整したりするなどの、共に生きていくための資質や能力の育成を図る視点も重視すること。

これらの課題を解決するためには、児童の主体的な活動を展開しながら、意図的に対話の場面を設定することにより、発想を広げたり、自らの思考のプロセスや造形的な見方・考え方を認知したり、自他の表し方の違いに気付くことができるようにしたりする必要がある。

また、文化や生活、社会そのものをつくり出す主体的な態度を育成するためには、まず、

自分の考えや思いをもつことが重要である。本研究では、児童が思いをもち主体的に創造することができるようにするため、「図画工作科における対話」に焦点を当てることとした。

※1…以降の文章中では、対話的な活動のことを「対話」と表記する。

### 3 東京都教育研究員の課題と授業の実態について

上記を受け、授業での対話の場の設定や課題を明確にするため、以下の項目について5区市109人の図画工作科を担当する教員にアンケートを実施した。

- (1) 「対話的な学び」の対話で、特に大切だと思っているもの（三つまで複数回答可）
- (2) 実際に授業で多く設定している対話的な学びとその理由（三つまで複数回答可）
- (3) 特に難しさや課題を感じる対話的な学びとその理由（当てはまるもの一つ回答）

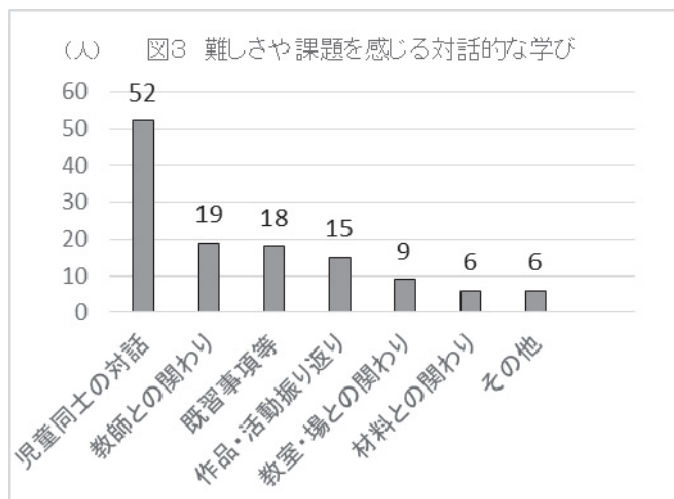
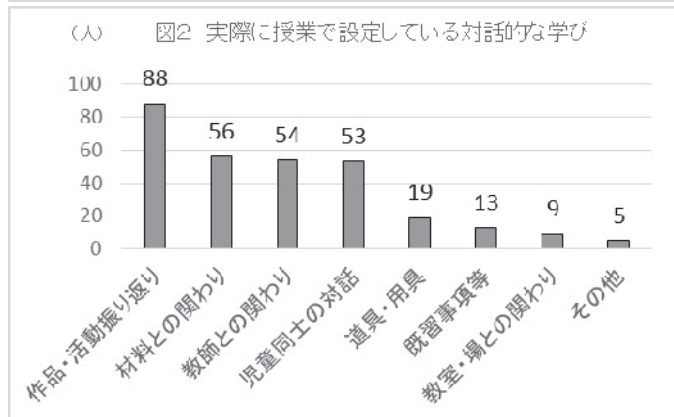
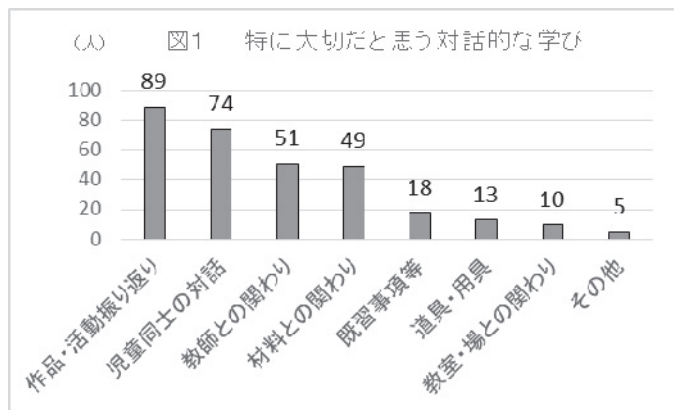
アンケートの結果は、以下のとおりであった。

まず、図1「特に大切だと思う対話的な学び」と図2「実際に授業で設定している対話的な学び」の結果から、「作品・活動の振り返り」を大切だと思い、多く設定していることや、「児童同士の対話」を特に大切だと思う教員が多いが、実際の授業場面では設定していない教員がいることが分かった。

次に、図3「難しさや課題を感じる対話的な学び」の結果からは、図1と図2の結果同様「児童同士の対話」について、難しいと感じている教員が多いことが分かった。

続いて、図4「授業で対話的な学びを設定している理由」からは、「発想を広げるため」や「意欲を高めるため」と考えている教員が多くいるが、設定に当たっては、図5「対話的な学びの難しさや課題とその理由」から、「時間がない」、「指導法がわからない」や「一斉指導が難しい」と感じている教員が多いことが分かった。

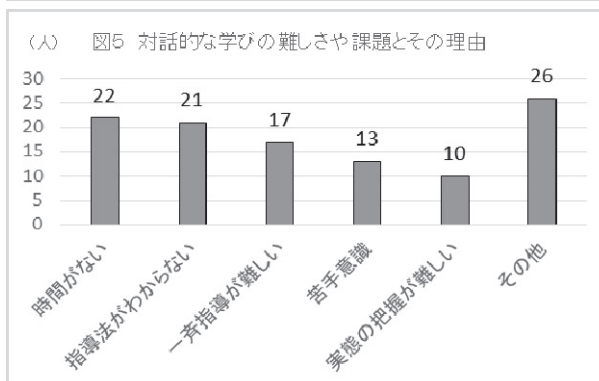
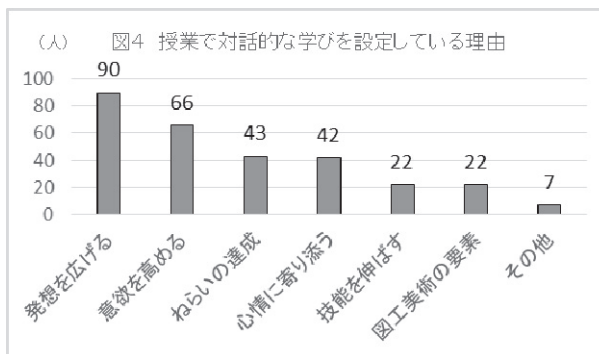
このことから、現在の指導場面では、児童個々がそれぞれ異なる作品をつくっているため、その対応に追われたり、対話の視点を定めること



が難しかったりするのではないかと考えた。

また、「その他」としては、児童が伝えたいことを言語化することが難しいということや、コミュニケーション能力の個人差が大きいいため、対話が成立しにくいことも課題として挙げられた。

これらのことを踏まえ、児童の主体的な活動を充実させるため、題材の特性や児童の実態に応じて意図的かつ効果的に対話を取り入れる工夫が必要であると考えた。



## II 目指す児童像

自ら表したいことや表す方法を見つけて、創造的につくる児童

## III 研究仮説

題材の特性に合わせ、「もの・こと」、「人」との対話を工夫することで、自ら表したいことや表す方法を見つけて、主体的に創造する児童を育成することができるだろう。

## IV 研究の視点

### 1 平成 29 年度教育研究員報告書の視点について

「平成 29 年度教育研究員報告書（図画工作）」では、研究主題を「図画工作ができる児童の育成」とし、自己の取組を認識するために研究の視点として「対話」を取り入れ、対象を、「人」、「もの」、「こと」として研究を進めている。同報告書によると、対象を明確にすることで、対話の目的が明確になり、児童の変容を的確に捉えられるようになるという成果が挙げられている。児童の変容を的確に捉えることは、本研究の目指す児童像「自ら表したいことや表す方法を見つけて、主体的に創造する児童」に迫るために有用であると考え、本研究でも、「対話」を分類して取り組むこととした。

なお、本研究では、対話の対象を、授業で出会う事柄順に再整理し、「もの・こと」、「人」とした。また、「もの・こと」については、触覚的・視覚的感觉を自分自身で感じる「自分との対話」、「人」については「他者との対話」として位置付け、以下のとおり分類することとした。

- (1) 材料や学習の場など、「もの・こと」との対話→「自分との対話」
- (2) 教師や友人など、「人」との対話→「他者との対話」

## 2 対話の分類について

### (1) 対話の対象について

研究仮説を踏まえ、対話の対象を以下のとおり分類した。

#### ア 「もの」

i …材料 ii …用具 iii …作品 (つくる過程も含む)

○ 材料や用具との出会いを通して作品や活動のイメージを広げるとともに、より明確にすること。

○ 自分の表現したいテーマについて作品を通して形にすること。 など

#### イ 「こと」

i …学習の場 ii …時間 iii …情報

○ 造形あそびなどにおける学習の場との出会い、場の設定を生かすこと。

○ 時間—活動の時間、また自分の既習の時間、過去の体験

○ 情報—既に提示されている情報や授業や題材を進めていく中で得た新しい情報 など

#### ウ 「人」

i …教師 ii …友達 iii …保護者、地域の方、専門家など

○ 教師による、導入・活動・鑑賞など様々な場面での発問や声掛け

○ 作品のイメージや本人の意図を伝えるための友達との対話

○ 自分の家族に完成した作品を見せたり、活動の様子などを伝えたりすること。

○ 地域に作品を発表することなどを通しての地域の方との対話、専門家の方との対話 など

自分との対話

他者との対話

### (2) 本研究で検証する対話について

対話的な活動には、教師側が意図的に考えた活動と児童のつくりたいという内面的な意欲から起きる活動とが存在すると考えるが、本研究では、教師の意図により生じた「もの・こと」、「人」との対話によって、児童が何を考え、どのように判断し、造形的な視点を深めることができたかを検証することとする。

## 3 授業改善を図るための具体的手だて

研究仮説に基づき、以下の4回の検証授業を通して、検証を行った。

|   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 1 | 第2学年「こんな 秋 みつけた」                   |
| 2 | 第3学年「切った形の大かつやく」                   |
| 3 | 第4学年「くしゃくしゃ、くるくる、ビリビリ 図工室を変えちゃおう！」 |
| 4 | 第5学年「図工忍法 かくれ身の術！」                 |

検証授業に当たり、「題材の目標」と「共通事項」を明確化し、造形的な視点を深めるために重要であると考えた対話的な活動の工夫「声掛け・発問」と「場の設定」を意識しつつ、「もの・こと」、「人」との具体的な手だてを設定することとした。その際、図6「対話の充実シート」を使用し、情報を整理することとした。

この「対話の充実シート」を使い、題材の目標や共通事項から、「声掛け・発問」と「場の

設定」の視点を通じ、対話の対象である自分（もの・こと）・他者（人）との対話に対する具体的手だてを考えた。また、協議会において、対話的な学びを話し合う際にも、活用した。

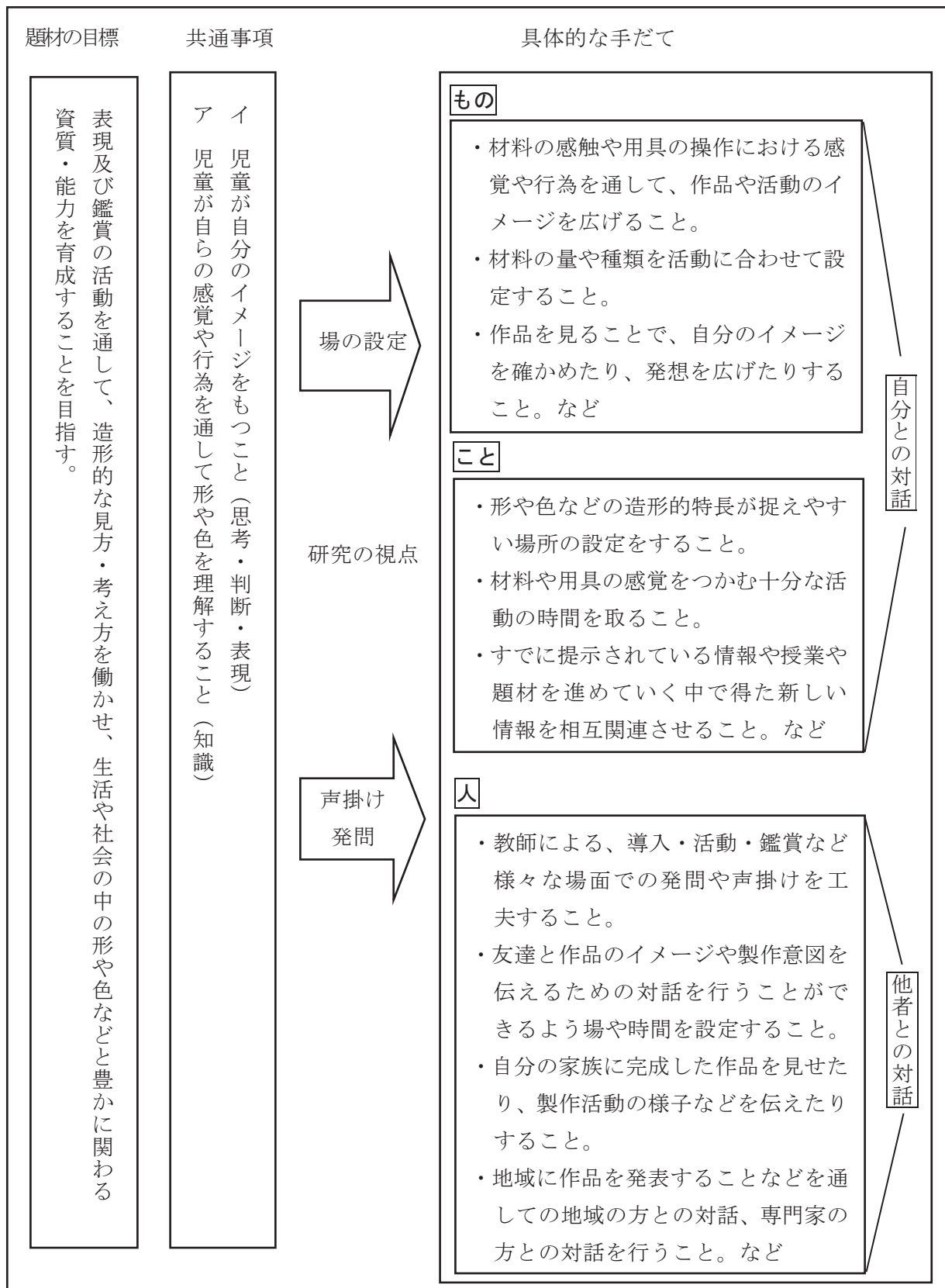
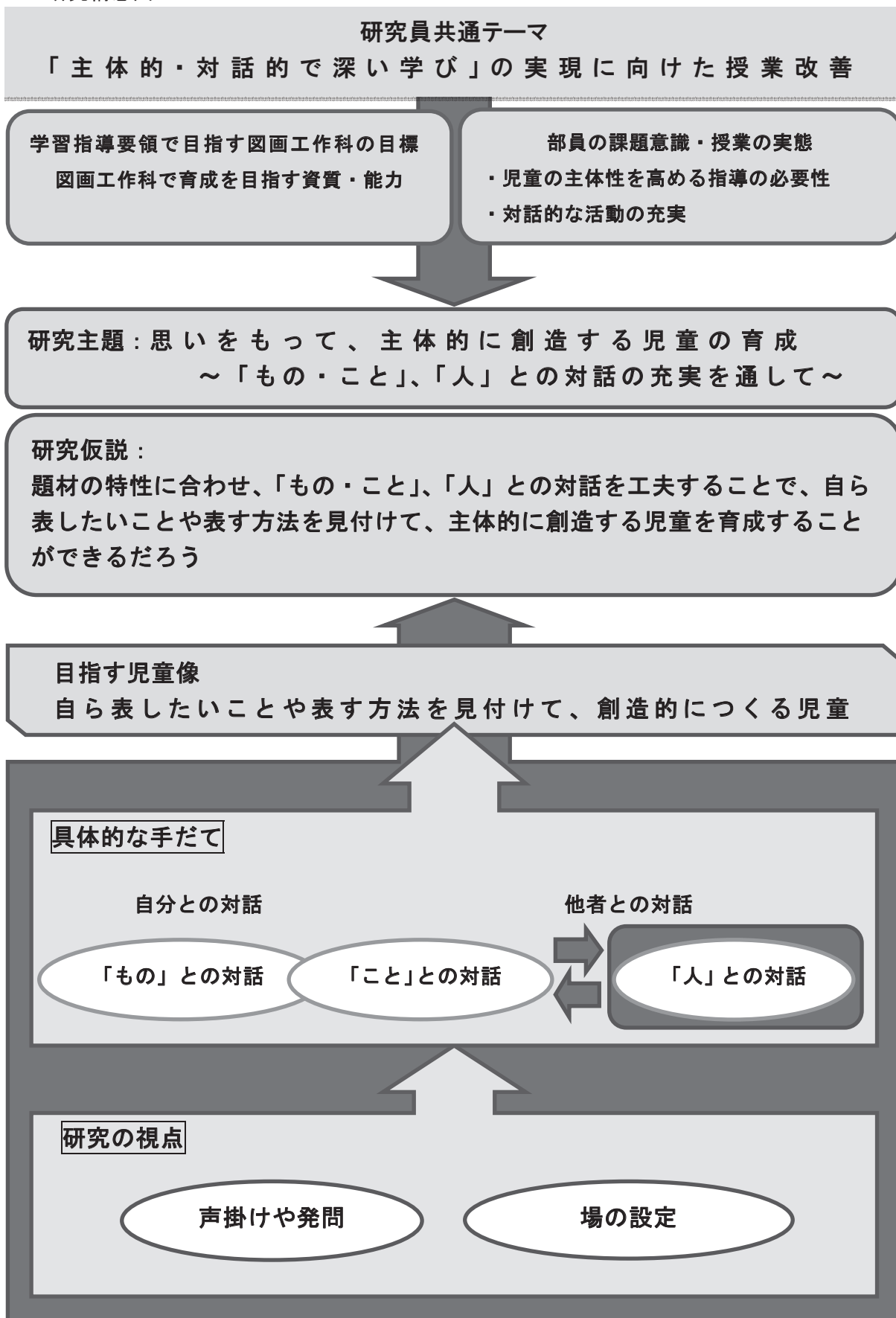


図6「対話の充実シート」

V 研究の内容

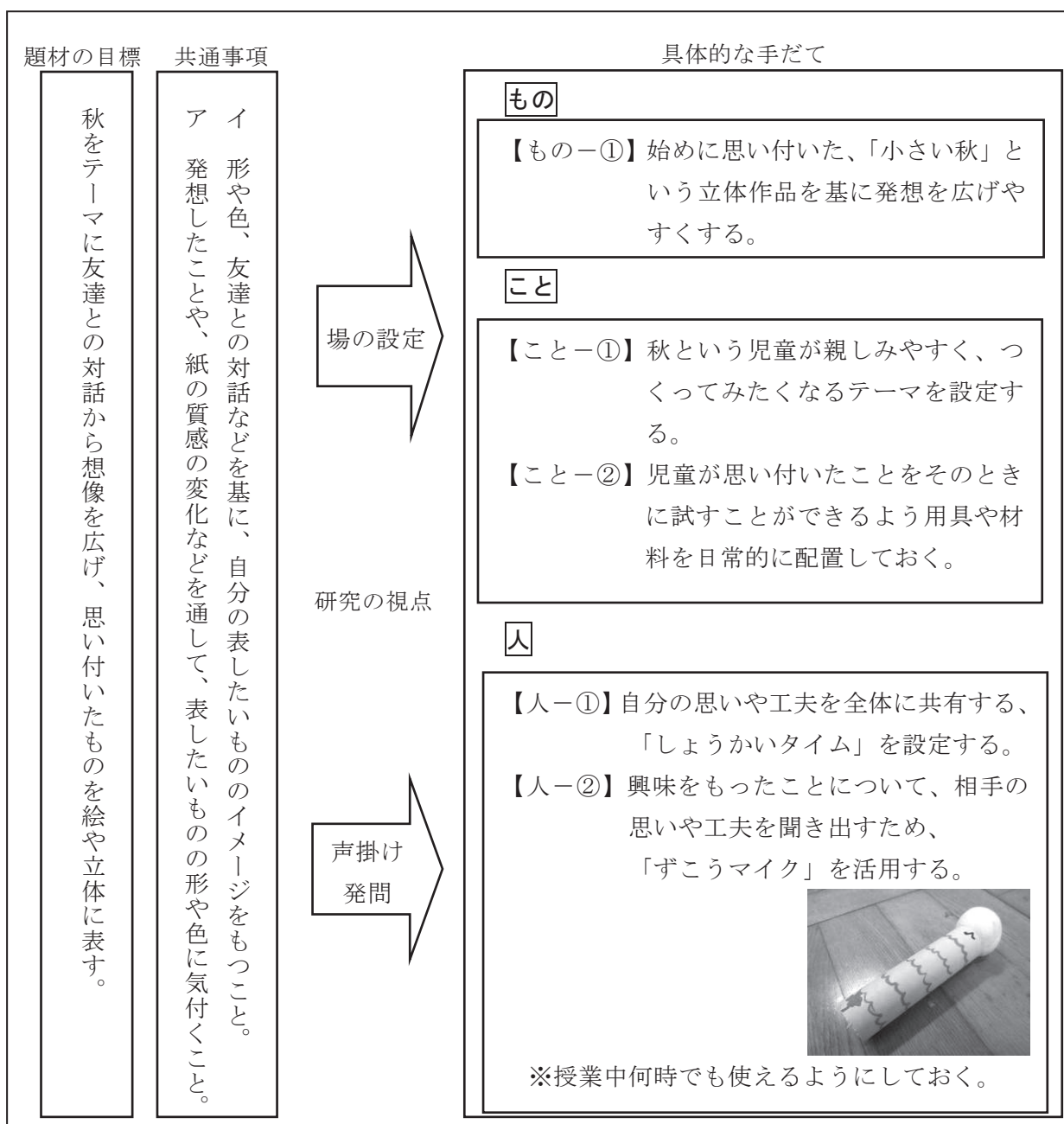
1 研究構想図





## 2 検証授業①

- (1) 題材名 「こんな 秋 みつけた 」A表現(1)イ B鑑賞(1)ア 対象 第2学年  
 (2) 題材の目標と研究主題との関連「対話の充実シート」



### (3) 題材の評価規準

| ア 造形への<br>関心・意欲・態度             | イ 発想や<br>構想の能力                          | ウ 創造的な技能                       | エ 鑑賞の能力  |
|--------------------------------|---|--------------------------------|--|
| 秋というテーマを基に絵や立体に表すことを楽しもうとしている。 | しょうかいタイムやインタビュータイムで発想を広げ、表したいことを追求している。 | 自分のイメージに合わせ、材料の使い方や表し方を工夫している。 | 自分の活動を紹介したり、友達の作品の良さや面白さを発表したりすることで見方や感じ方を広げている。 |

#### (4) 指導観

本題材は、秋というテーマから自分の表したいことを思い付き、絵や立体に表したりそれを基に場所の様子を変えたりする表現の活動である。

初めの段階（一次）では、小さな立体作品（小さい秋）を一人一人がつくることから始める。終末で自分の思いや工夫を全体に伝える、「しょうかいタイム」を行い、児童は全体に対しての発表をしたり、それを見て気付いたことを紹介したりし合うことで、秋に対する思いを引き出す。

二次では、「ずこうマイク」を使い、自分が興味をもった質問や、全く考えていなかった思いや工夫、また自分の作品についての意見や感想を聞き出し、興味をもったことを聞き出す場を設定する。さらに、インタビューを受ける側も、自分の表し方や活動のよさに気付くことができる。これらの対話の手だてを通じて、普段は無意識になりがちな友達の活動や思いを意識し、互いの活動を見たり行き来したりしながら友達同士の対話を深めることで、自ら表したいもののイメージをもち、主体的に想像することができると考えた。

今回は新たな材料の操作として、ボリューム感のある立体をつくることができるよう、丸めた新聞紙を揉み紙（十分に揉んで布のように柔らかくなった画用紙）で包む方法を第一次で紹介する。手や指に伝わる紙の質感の変化や、つくりたいものを立体化できる楽しさを知り、第二次以降に対話的な活動を深めることで、新たな価値に児童が気付くことができるよう指導する。

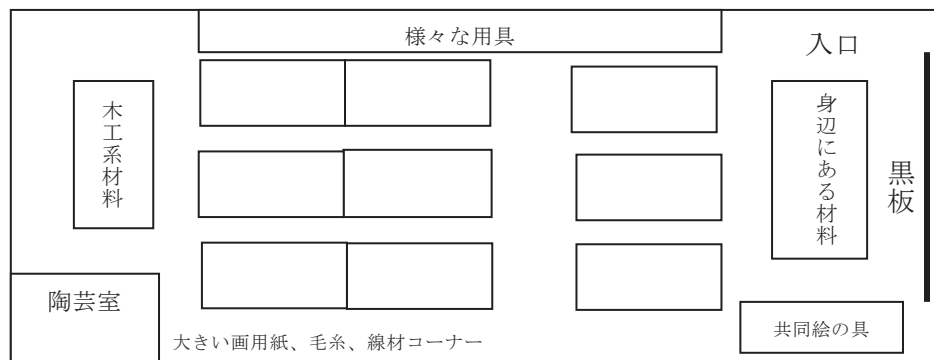
#### (5) 学習環境や材料・用具等の工夫について

##### ア 自分との対話を充実させる材料や用具について

- ・ 授業者・・・ずこうマイク、新聞紙、色画用紙、リサイクル画用紙、リサイクル木片、毛糸、スズランテープ、色セロハン、木工ボンド、共同絵の具、チョーク、パステル、カラーペン、カッター、カッターマット、その他既習材
- ・ 児童・・・のり、ハサミ、クレヨン、スモック、新聞紙

##### イ 学習環境の工夫

- ・ 既習の用具や材料がいつでも使えるように、見やすく配置する。
- ・ 床や図工室内の他の空間など、場所を移動して活動することができるようにする。



ウ ワークシートの工夫

インタビュータイムで低学年の児童でも話しやすくするために活用する。

## ずこうマイクで 聞いてみよう！

① どんな 小さい<sup>あき</sup>秋 を見つけましたか？ \_\_\_\_\_

② これから どうなるんですか？ \_\_\_\_\_

③ ぼく・わたし なら こうします。 \_\_\_\_\_

★ もう<sup>いち</sup>ど、くわしく おしえてください。

★ ほかに おもしろくする ほうほうを、おしえてください。

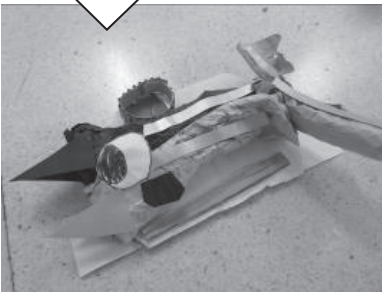


など、くふうして インタビューしよう。

\_\_\_\_年\_\_\_\_組 なまえ\_\_\_\_\_

※他の題材で使用する場合、項目を「① なにをつくっているんですか？」等に変更する。  
(裏表 A5 判)

### (6) 題材の指導計画と評価計画 ( 全4時間 )

|                       | 学習内容・学習活動   | ○ 指導上の留意点   | ・評価規準【観点】<br>(評価方法)                             |
|-----------------------|---|---|---|
| 第<br>1<br>・<br>2<br>時 | 1 秋というテーマを基に、つくりたいものを思い付き、自分の表したい「小さい秋」を見付ける。【こと-①】 | ○ 布紙と新聞紙を使ったボリュームある立体の作り方を伝える。<br>○ 互いのつくったものを全体で共有させる。<br>○ この後、どうなるのかを後でインタビューすることを伝える。 | ・秋というテーマを基に絵や立体に表すことを楽しもうとしている。【関】<br>(発言、活動の姿) |

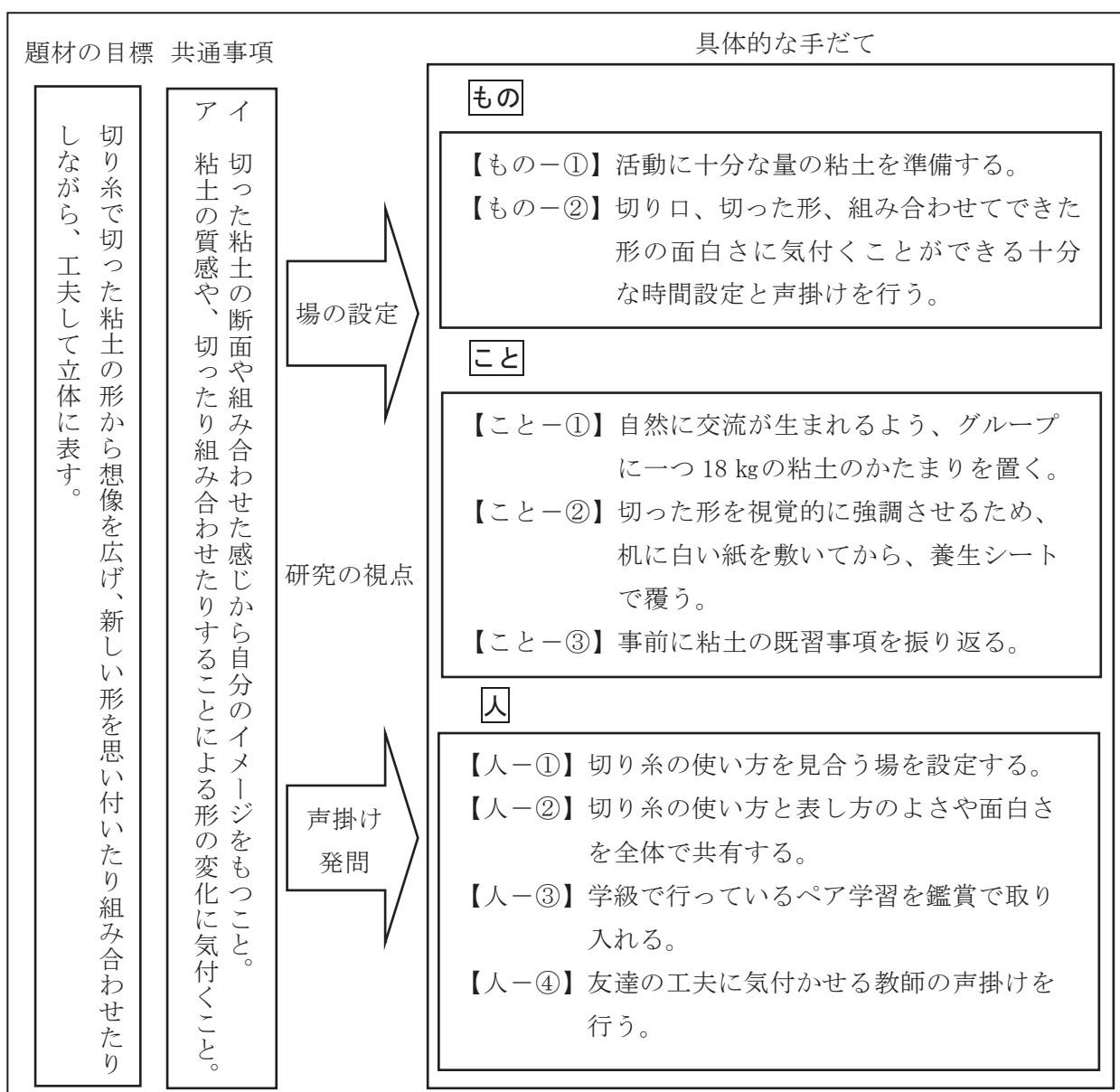
|              |   |   |  |
|--------------|---|---|--|
|              | <p>2 「しょうかいタイム」</p> <p>【人-①】自分のつくった「小さい秋」を紹介しています。「秋のサンマ」</p>  <p>3 次時の活動内容について見通しをもつ。</p>                           | <p>○ 既習の材料や用具が使えることを説明する。【こと-②】</p> <p>【もの-①】思い付いたものをつくっている。「ふかふかおちば」</p>   | <p>・自分のイメージに合わせ、材料の使い方や表し方を工夫している。</p> <p>【技】(作品、活動の姿)</p>  |
| <p>第3・4時</p> | <p>4 「インタビュータイム」<br/>T「興味をもった作品や自分の作品について、図工マイクで聞いてみよう。」</p> <p>「このあとどうなるんですか？」</p>  <p>5 広げた発想や構想を基に活動を発展させる。</p> | <p>○ 前時の活動を振り返らせる。</p> <p>○ それぞれの発想の違いや良さがあることを感じたり、発想や構想を広げたりさせる。</p> <p>○ 個人の活動が他と結び付いたり、つくる場所が変わったりすることも可とする。</p> <p>【人-②】「ずこうマイク」で友達の作品や活動のよいところや工夫を見付けている。</p> | <p>・自分の活動を紹介したり、友達の作品の良さや面白さを発表したりすることで見方や感じ方を広げている。【鑑】(ワークシート)</p> <p>・しょうかいタイムやインタビュータイムで発想を広げ、表したいことを追求している。【発】(作品、活動の姿)</p>                |

(7) 成果と課題

|           |   |
|-----------|---|
| <p>成果</p> | <p>○ 「しょうかいタイム」、「ずこうマイク」などの対話の手だてを通して、新たな友達の視点や考え方を知り、結果的に発想や構想を十分に広げながら、自分の表したいもののイメージをもつことができた。</p> <p>○ 友達にアイデアを伝えることを通して、自分の表し方や良さに気付くことができた。</p> |
| <p>課題</p> | <p>● 話型に縛られて自由な発想が伝えられないことがないよう、使う場面や内容を工夫する必要がある。</p> <p>● つくっている段階では、子供同士の対話が集中を妨げる要因になることもあったため、対話のタイミングを工夫する必要がある。</p>                            |

### 3 検証授業②

- (1) 題材名 「切った形の大かつやく」 A表現(1)イ B鑑賞(1)ア 対象 第3学年  
 (2) 題材の目標と研究主題との関連「対話の充実シート」



### (3) 題材の評価規準

| ア 造形への<br>関心・意欲・態度                                 | イ 発想や<br>構想の能力   | ウ 創造的な技能                             | エ 鑑賞の能力                             |
|--|--|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 粘土を切ってできた形を組み合わせたり、自分の考えたイメージを形にしたりすることを楽しもうとしている。 | 切り口の形や切った粘土を組み合わせでできた形を基に、表したいことを思い付いたり組み合わせたりして、構想を広げている。 | 自分のイメージに合わせて、粘土の切り方や形の組み合わせ方を工夫している。 | 友達の活動や表現を見て、表し方のよさや面白さをとらえ、感じ取っている。 |

#### (4) 指導観

本題材では、粘土を切り糸で切ったり、組み合わせてできたりした形から、表したいことを見付け、工夫して立体に表す活動を行う。粘土は切る・つなげるなど加工が簡単で、繰り返し形をつくりかえることができる。そのため、友達の工夫を取り入れ、つくり変えながら、自分の表したいことや表す方法を見付けて取り組むことができる。切り糸で切った粘土の形から想像を広げるために、切った粘土の形のよさや面白さに児童が気付くことができるよう、机には白い紙を敷く。

授業の導入では、切り糸を使うことで、粘土を直線や曲線で切ることができることや大小に切り分ける様子を見せ、色々な切り方ができると気付かせる。

グループ4人が使用する粘土(18kg)を机の中央に置き、粘土を切る様子を児童が互いに見合うことができるようにする。また、粘土の切り方や切った形を互いに見合い、友達と交流する活動を取り入れることで、切ったり組み合わせたことによる形の変化に気付かせ、自分なりの表し方をさらに工夫しやすくなるよう指導する。

これらの手立てを通して、切った粘土の断面や組み合わせた感じから自分なりのイメージや表す方法を見付けて、主体的に創造する児童を育成できると考えた。

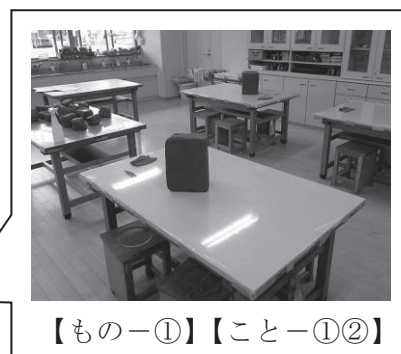
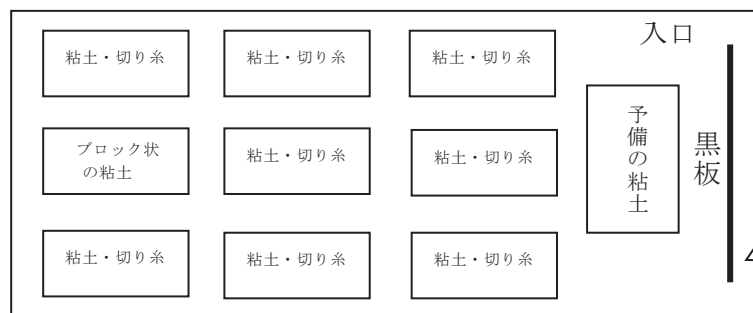
#### (5) 学習環境や材料・用具等の工夫について

ア 自分との対話を充実させる材料や用具について

- ・ 授業者・・・土粘土（班で18kg）、切り糸、雑巾、養生シート、白い紙

イ 学習環境の工夫


- ・ 机は白い紙を敷いてから、養生シートで覆う。
- ・ 各班の真ん中に粘土のかたまりを置く。





#### (6) 題材の指導計画と評価計画（全2時間）

|     | 学習内容・学習活動   | ○ 指導上の留意点   | ・評価規準【観点】<br>(評価方法) |
|-----|---|---|---------------------|
| 第1時 | 1 切り糸の基本的な扱いについて知り、活動の見通しをもつ。<br>T「切り糸を使うと、どんな形に切れたかな？」 | ○ 切り糸の基本的な扱いについて実演することで、活動に興味をもてるようにする。<br>○ 切った粘土の形や大きさに児童が気付くように切る。 |                     |
|     | 切り糸で切った形を生かしてつくろう。                                      |   |                     |



|   |   |   |
|---|---|---|
| <p>2 本時の活動を知る。<br/>T「切ってできた形を上手に使って組み合わせると、何ができるかな？」</p> <p>3 粘土のかたまりをグループで順番に切り糸で切り、できた形の面白さを伝え合う。<br/>T「みんなで相談して、いろいろな形に切ってごらん。面白い形に切れたら見せ合いましょう。」</p>  | <p>○ 題材名を提示し、めあてを確認する。</p> <p>○ 粘土を糸で切ることを十分に楽しむ時間を取る。<br/>【もの-②】</p> <p>○ 児童同士関わり合いながら切り糸の使い方を試すことで、様々な粘土の形や使い方を共有する。</p> <p>○ できた形の面白さを認め、色々な形を意欲的に切れるよう促す。【もの-②】</p>                     | <p>・粘土を切ってできた形を組み合わせたり、自分の考えたイメージを形にしたりすることを楽しもうとしている。【関】(発言、活動の姿)</p>  |
| <p>「見て！<br/>なみなみになったよ！」</p> <p>【こと-①】【人-①】<br/>グループの真ん中に、粘土のかたまりを置くことで、友達と必然的に関わっている。</p>   |    | <p>「いいね！<br/>どんな風に切ったの？」<br/>「川が流れている<br/>みたいだね。」</p>   |
| <p>4 見付けたことや、つくりたいものについて、全体で共有する。【人-②】<br/>T「できた形や切り糸を使って発見したことから、やりたいことが、思い付いた人はいますか？」</p> <p>5 切ってできた形から、自分のイメージを広げ、表したいことに合った切り糸の使い方や粘土の組み合わせ方を工夫する。<br/>T「切ってできた形を組み合わせると、どんなものができそうですか？」</p> | <p>○ 切り糸の使い方を工夫することにより、切り口が変化することに気付かせる。<br/>【人-④】</p> <p>○ 切り糸を使ってできた形の面白さに注目させ、それを生かしながら、活動できるようにする。</p> <p>○ 組み合わせ方を例示し、児童に活動の見通しをもたせる。</p> <p>○ 細かい部分は既習事項を生かしてつくるよう伝える。<br/>【こと-③】</p> | <p>・切り口の形や切った粘土を組み合わせでできた形を基に、表したいことを思い付いたり組み合わせたりして、構想を広げている。【発】(活動の姿、作品)</p> <p>・自分のイメージに合わせて、粘土の切り方や形の組み合わせ方を工夫している。【技】(活動の姿、作品)</p> |

|     |   |  |  |
|-----|---|--|--|
|     | <p>【ことー②】<br/>机に白い紙を敷くことで、切った粘土の形を強調している。</p> <p>6 作品を見て、友達の表し方や用具の使い方の工夫を見付ける。<br/>T「切ってできた形から、どんな工夫ができたかな？」</p>       |  <p>「もっと南の島に見えるように、この粘土とこの粘土をくっつけようかな。」</p> <p>○ 同じ用具を使ってもできる形が違うことよさや面白さを感じられるようにする。<br/>【人ー③④】</p> |  |
|     | <p>「思い付かなかったアイデアだな。今度、つくってみたいな。」</p>  | <p>「最初に見付けた火山みたいな形に付け足しました。」<br/>「この形は、斜めに切り糸を引っ張って切りました。」</p>   |  |
| 第2時 | <p>7 作品に題名を付け、自分の思いを書く。<br/>8 作品を鑑賞し合い、形のよさや面白さ、切り糸の使い方の工夫について紹介し合う。<br/>T「切った形から思い付いたことや切り糸の使い方工夫したことを伝えよう。」</p>       | <p>○ 粘土の形や切り糸の使い方など、鑑賞の視点を明確化する。<br/>○ 個別の声掛けで、児童が見付けた互いのよさを認め、より多くの工夫が見付けられるようにする。<br/>【ものー②】【人ー④】</p>  | <p>・友達の活動や表現を見て、表し方のよさや面白さをとらえ、感じ取っている。<br/>【鑑】(活動の姿・ワークシート)</p> |

(7) 成果と課題

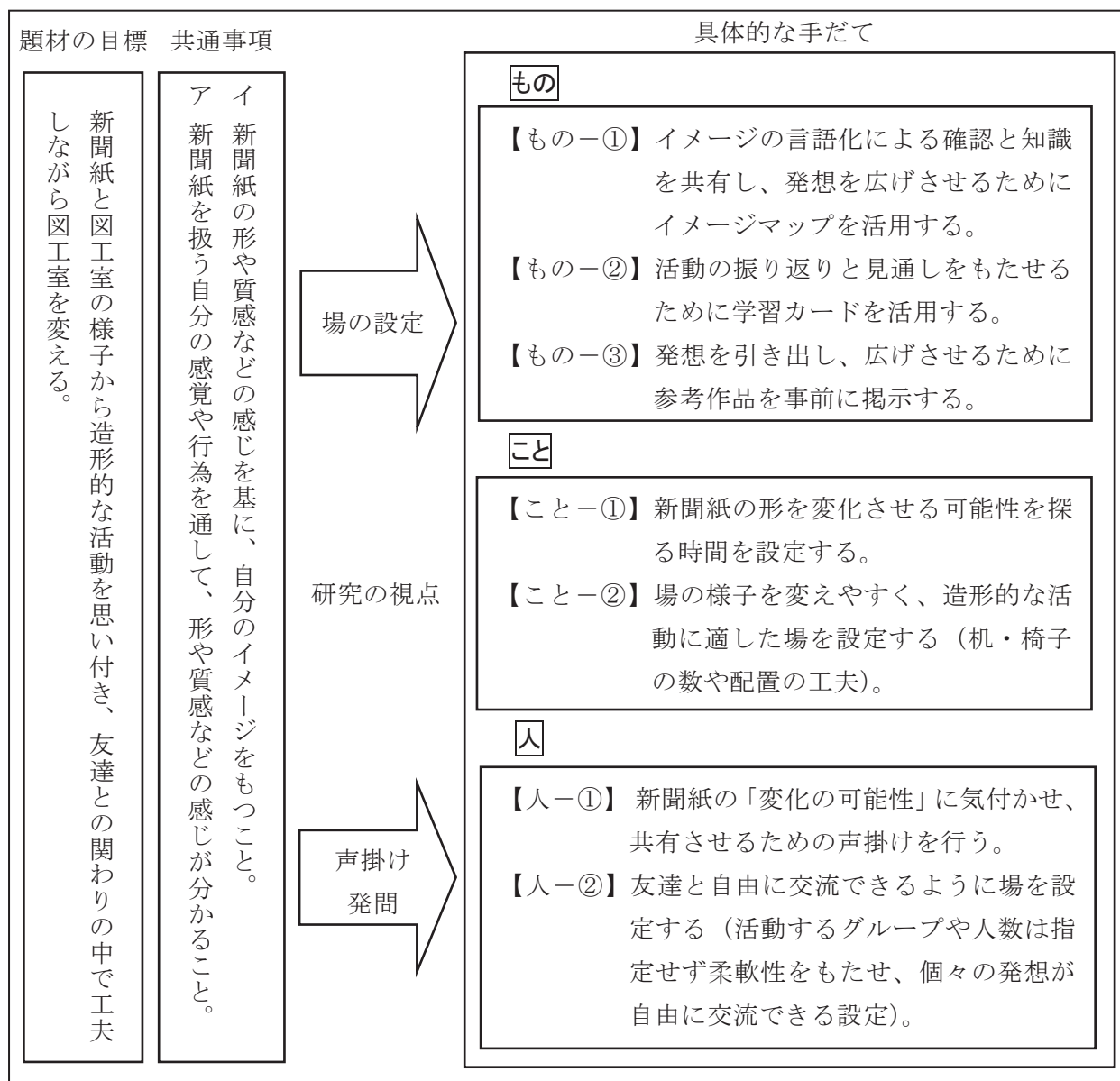
|    |   |
|----|---|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 切り糸を試す時間を十分に確保することで、様々な切り方の工夫を見付けることができた。</li> <li>○ 粘土の置く位置を工夫することで、児童同士の自然な交流が生まれ、友達から見付けた発想や工夫を自分の表現に生かすことができた。</li> <li>○ 白い紙を机に敷くことで、切り糸で切った粘土の形が見やすくなり、形のよさや面白さに気付かせることができた。</li> <li>○ 学級で行っているペア学習を鑑賞に取り入れることで、対話が活発になり、互いの作品のよさや面白さを見付け合うことができた。</li> </ul> |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 切り糸の使い方以外の発言を促すため、切り糸で切った粘土の形のよさや面白さに気付かせる教師の言葉掛けが必要であった。</li> </ul>   |



#### 4 検証授業③

(1) 題材名「くしゃくしゃ、くるくる、ビリビリ 図工室を変えちゃおう！」対象 第4学年  
A表現 (1) ア・(2) ア

(2) 題材の目標と研究主題との関連「対話の充実シート」



(3) 題材の評価規準

| ア 造形への<br>関心・意欲・態度                             | イ 発想や<br>構想の能力   | ウ 創造的な技能  | エ 鑑賞の能力  |
|--|--|---|--|
| 新聞紙の変化に感心を持ち、友達と関わりながら図工室の様子を変えることに取り組もうとしている。 | 新聞紙や図工室の様子から思い付いたイメージを基に、友達と関わりながら、どのように活動していくかを考えている。 | 新聞紙を様々な形に変えながら、思い付いたイメージを基に、工夫しながら図工室の様子を変えている。 | 友達の活動や表現を見て、自身の活動と照らし合わせて、表し方のよさや面白さを捉え、感じ取っている。 |

#### (4) 指導観

本題材では、新聞紙の形や場所の感じから思い付いたことを基にして、そこにあるものを生かしながら図工室の様子を変えていく活動を展開した。研究主題に基づき、題材の内容や扱う材料は「もの・こと」、「人」との対話の充実による学習の効果や、児童の活動が変化していく様子が、より明確に表れるような設定にした。

新聞紙で何ができるかを考えるために、個人やグループでイメージマップを作成し、それを掲示することで、図工室を変えるためのイメージをもたせるとともに、対話における共通の土台とし、友達の見意見を聞いて発想を広げる手だてとした。

児童が思い付いたことを自由に試しながら図工室の様子を変えていけるよう、新聞紙の形や質感の多様性や変化の可能性に気付かせるための時間を十分に設けた。また、第1時と第2時で机の数と配置を工夫することで、場や人への働き掛けを活発にし、人との関わりの中で活動の内容を柔軟に変えていけるようにした。

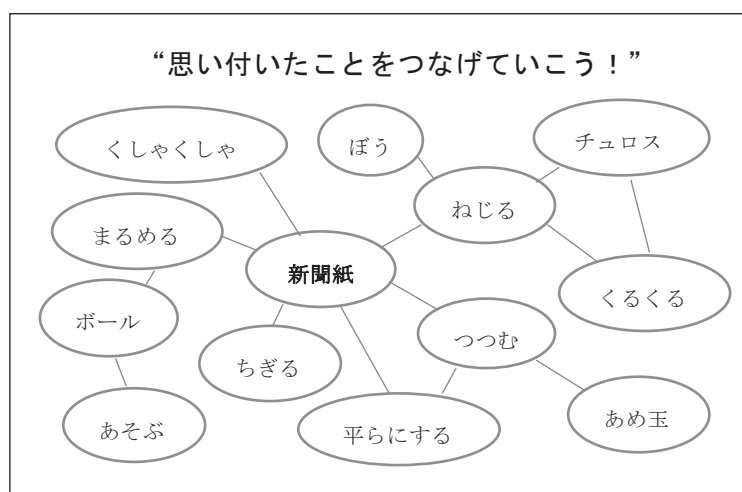
「もの・こと」、「人」との対話を充実させることで、児童自身の活動がどのように変化していくのかということを経験する中で、それらの大切さに気付かせたいと考えた。

#### (5) 学習環境や材料・用具等の工夫について

##### ア ワークシートの工夫

##### イメージマップの活用

##### 【もの-①】

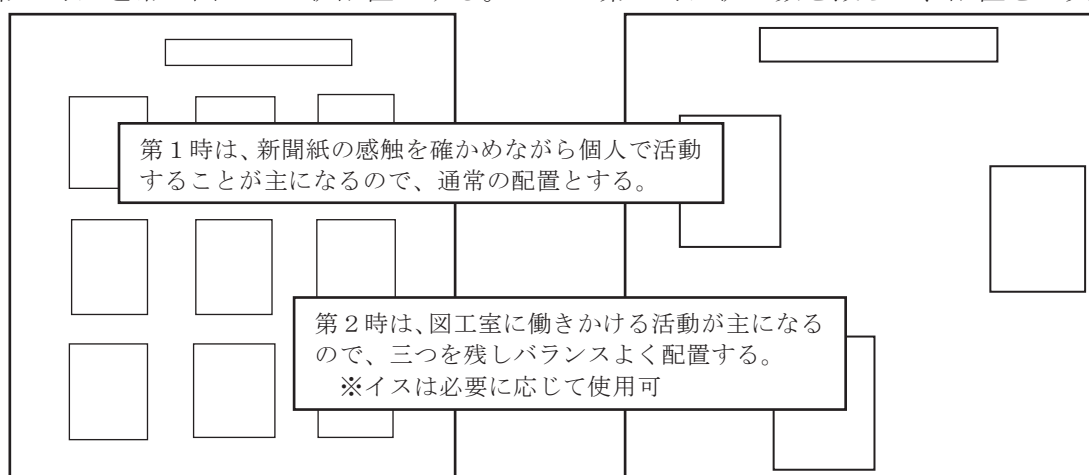


##### イ 学習環境


##### 机の配置【こと-②】


第1時は通常の図工室の机配置とする。

第2時は机の数を減らし、配置を工夫する。



(6) 題材の指導計画と評価計画 (全2時間)

|             | 学習内容・学習活動  | ○ 指導上の留意点  | ・評価規準【観点】<br>(評価方法)  |
|-------------|--|--|--|
| 第<br>1<br>時 | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">新聞紙で何ができるか考えよう。</p> <p>1 新聞紙で何ができるかを考える。</p> <p>2 カードと小イメージマップを記入する。<br/>カード「新聞紙で何ができますか。」<br/>【もの-②】</p> <p>・思い付いたことを発表する。 →</p> <p>・班で大イメージマップを作成する。<br/>【もの-①】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>【人-②】<br/>自分のアイデアを持ち寄り、考えを共有しながら広げている。</p> </div>  <p>3 自分の表したいことを見つけて活動する。【こと-①】</p> <p>4 活動の振り返りと次時への見通しをもつ。(カードに記入)<br/>【もの-②】</p> <p>カード「どんな活動ができましたか。」<br/>カード「図工室の様子を変えるために、新聞紙を使ってどんなことができそうですか。」</p> | <p>○ 新聞紙の形や質感の変化に気付かせる。「かたくするには」「やわらかくして、その後どうする」</p> <p>板書する。(知識の共有)</p> <p>○ 班ごとに作成したイメージマップを見ながら「どんなことができるか」を紹介させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>【こと-①】<br/>新聞紙の形を変化させる可能性を探っている。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>「ちぎった形と細長く丸めたものを組み合わせてみました。」</p> </div>  | <p>・新聞紙の変化に感心をもち、友達と関わりながら図工室の様子を変えることに取り組もうとしている。【関】(活動の姿)</p> <p>・新聞紙や図工室の様子から思い付いたイメージを基に、友達と関わりながら、どのように活動していくかを考えている。【発】(活動の姿、発言)</p> |
| 第<br>2<br>時 | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">図工室の様子を変えるために、何ができるかを考えて活動しよう。<br/>友達と交流しながら活動を広げよう。</p> <p>5 前時の振り返りと見通しをカードに記入し、発表する。<br/>カード「前の時間は新聞紙で何ことができましたか。」【もの-②】<br/>T「図工室で何ができそうですか。」</p>  | <p>○ 本時のめあてと安全面の配慮する点を説明する。<br/>(机・椅子に乗らない、はさみは使わない等)</p>  |  |

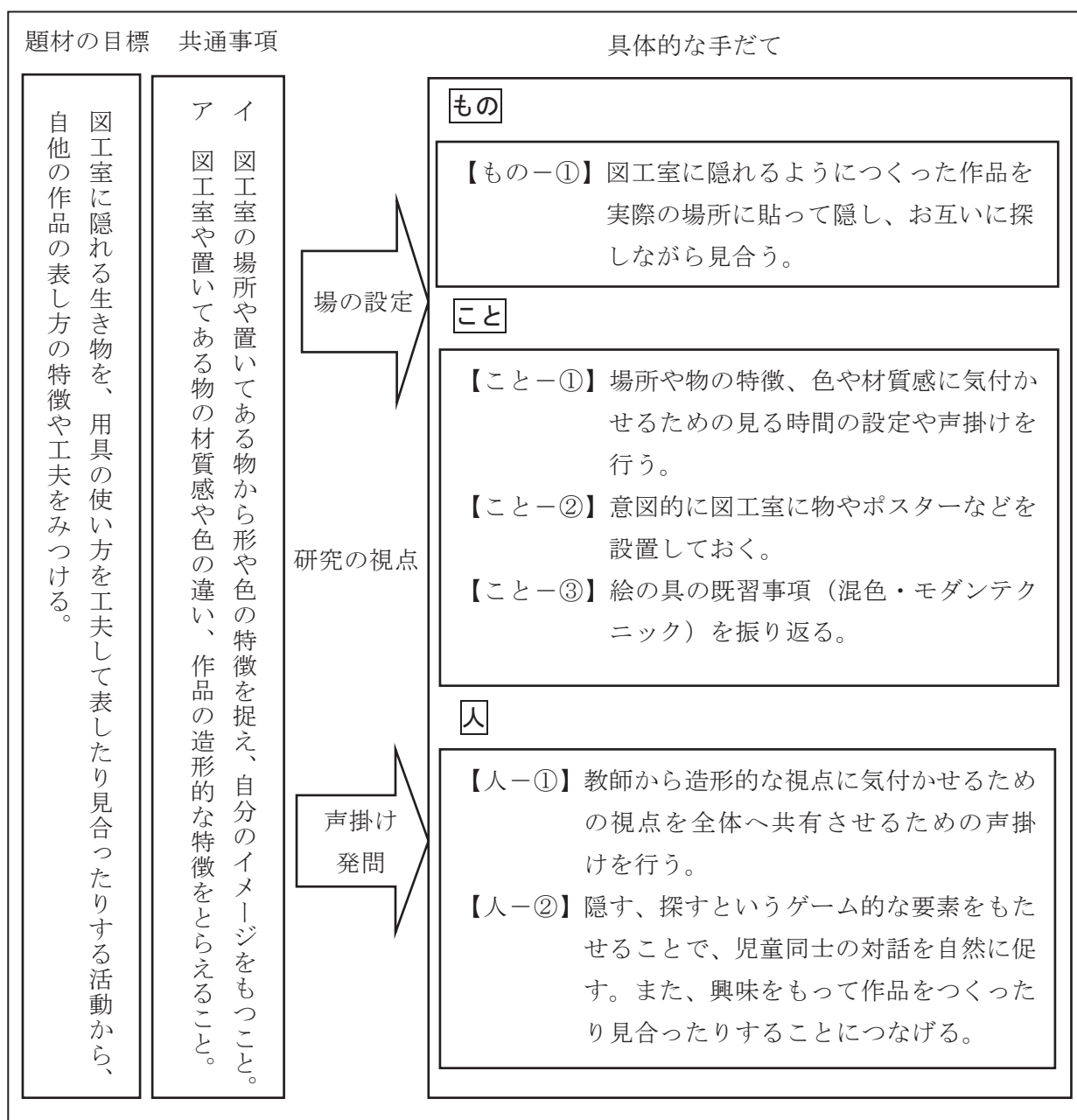
|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  | <p>6 カードを見せ合い、アイデアを出し合うことができたなら活動を始める。【人-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに活動を広げていく。【人-②】</li> </ul>  <p>【人-②】<br/>思い付いたことや工夫したことを伝え合いながら、それぞれの方法で図工室に働き掛けている。</p> <p>「椅子を使って立体的にして、屋根も付けたよ。」</p> <p>T 「図工室の様子を見てみましょう。始めと比べてどうですか。」</p> <p>7 活動を振り返り、カードを記入し、友達と表現のよさを伝え合う。【人-②】</p> <p>カード 「友達と話したり、一緒につくったりする中で気付いたことや自分の活動が変化したことはありましたか。」</p> <p>8 活動を通して感じたことを発表する。</p> | <p>○ 本時のめあてに沿って視点を明確にして話し合うように伝える。</p> <p>○ 活動の様子（作品）を紹介しながら児童の発表を進めていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞紙を様々な形に変えながら、思い付いたイメージを基に、工夫しながら図工室の様子を変えている。【技】（発言、活動の姿、作品）</li> <li>・友達の活動や表現を見て、自身の活動と照らし合わせて、表し方のよさや面白さを捉え、感じ取っている。【鑑】（活動の姿、発言、学習カード）</li> </ul> |
|--|--|--|--|

(7) 成果と課題

|           |  |
|-----------|--|
| <p>成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一人が意見交換することで自身の活動が活性化し、思いをもって主体的につくることができた。</li> <li>○ 個人やグループでイメージマップを作成することで、図工室を変えるためのイメージを明確にもたせることができた。またイメージマップを用いたことで、対話における共通の土台を築くことができ、話し合いの内容が明確になった。（知識の共有）</li> <li>○ 新聞紙の可能性を試す時間を十分に設けることで、形や質感の多様性に気付くことができ、図工室の様子を変える発想が広がった。</li> <li>○ 第1時と第2時で机の数と配置を工夫することで、場や人への働き掛けが活発になり、人との関わりの中で活動の内容を変えていくことができた。</li> </ul> |
| <p>課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動の見通しをもたせるために、早い段階で図工室を変えていくことを示した方がよかった（イメージマップの活用のタイミングで示すのが良い。）。</li> <li>● イメージマップを使いアイデアを出し合ったメンバーとは、違うメンバーで活動していた。つながりをもたせれば、さらに個々のアイデアを生かした活動が期待できた。</li> </ul>   |

## 5 検証授業④

- (1) 題材名「図工忍法 かくれ身の術！」A表現(1)イ B鑑賞(1)ア 対象 第5学年  
 (2) 題材の目標と研究主題との関連「対話の充実シート」



### (3) 題材の評価規準

| ア 造形への<br>関心・意欲・態度   | イ 発想や<br>構想の能力   | ウ 創造的な技能   | エ 鑑賞の能力   |
|--|--|--|---|
| <p>図工室・物の特徴<br/>                     から思い付いたこと<br/>                     を進んで表したり、<br/>                     見合う活動を楽しも<br/>                     うとしたりしてい<br/>                     る。</p> | <p>図工室・物の形や<br/>                     色からつくりたい生<br/>                     き物を思い付き、ど<br/>                     のように表すか考え<br/>                     ている。</p> | <p>隠す場所に合わ<br/>                     せ、絵の具の使い方<br/>                     を試しながら表し方<br/>                     を工夫している。</p> | <p>自分の作品や、友<br/>                     達の作品に関心をも<br/>                     って意図や特徴を述<br/>                     べたり書いたりして<br/>                     いる。</p> |

(4) 指導観

本題材は、図工室に隠れている生き物をつくりお互いに探し見合いながら、作品の工夫やよさを伝え合う活動である。作品・場所・人との対話を通し、主体的につくり見ることを自然に繰り返しながら、自他の作品の表し方の特徴や工夫を見付けていく。

場所や物からイメージをもたせるため、「生き物が隠れていそう」という視点で図工室を探検する時間をつくる。生き物を隠すという視点で見ることから、質感、特徴に気付き、場所からのイメージをもつことができると考える。教師との対話を通して、クラス全体でそれぞれ見付けた場所から思い付いた生き物のアイデア例を共有させ、つくってみたい生き物の見通しをもたせる。つくる活動に当たっては、これまでに学んだ絵の具の混色や表現方法（モダンテクニック）の既習事項を活用しながら質感や特徴に近付けられるようにする。

児童にとって図工室に生き物を隠すという行為は、宝探しのようなわくわく感と、友達に見付けられないようにつくりたいというゲーム的な面白さがある。そこからつくることや見ることに意欲をもち主体的に活動することが期待される。自分が見付けた作品を友達と教え合う中に、隠れるという共通の見る視点があり、場所や物からどう発想を広げたのか、どのような工夫がされているのかが見付けやすくなると考える。

(5) 学習環境や材料・用具等の工夫について




ア 自分との対話を充実させる材料や用具について


- ・ 授業者・・・画用紙（約15センチ四方）、デジタルカメラ
- ・ 児童・・・はさみ、水彩絵の具セット、色鉛筆、セロハンテープ、図工ノート

(6) 題材の指導計画と評価計画（全3時間）

|     | 学習内容・学習活動  | ○ 指導上の留意点  | ・評価規準【観点】<br>(評価方法)                                      |
|-----|--|--|--|
| 第1時 | 1 擬態している生き物の写真や図工室に隠した教師の例示を見て、本題材の内容を知る。  | ○ 例示に何の生き物がかくれているか児童に当てさせながら興味をもたせる。   | ・ 図工室・物の形や色からつくりたい生き物を思い付き、どのように表すか考えている。【発】（発言、活動の姿、作品） |
|     | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     図工忍法 かくれ身の術で 図工室に生き物をかくそう                 </div> 2 図工室で隠す場所を探し、どんな生き物ができそうか自分の考えをもつ。<br>T「どんな場所にどんな生き物がいると面白いかな？」<br>3 隠す生き物をつくる。<br>4 作品を隠し、写真を撮る。 | ○ 図工室の中を歩き、どこにどのような生き物をつくるか考える時間を取る。【ことー①】<br>○ 全体で見付けた場所やつくりたい生き物を発表し、思い付かない児童へのヒントやつくる意欲を高める。【人ー①】 |  |



|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| 第2時  | <p>5 前時に教室に隠した作品を見ながら、よさや工夫を確認し、自分の活動を考える。<br/>T「うまくかくれているものはいましたか？」</p>    | <p>○ 「探す」行為を通して、楽しさや興味を引き出し、場との対話を促す。【もの-①】【人-①②】</p>   | <p>・ 図工室・物の特徴から思い付いたことを進んで表したり、見合う活動を楽しもうとしたりしている。</p> |
|  | <p>T「どうしたら見つかりにくいのかな？」<br/>T「残りの時間はどうしたいですか？」<br/>C「新しい生き物をつくりたいです。」<br/>C「さっきつくっていた生き物に細かく模様をかきます。」<br/>6 隠す場所から生き物の形を思い付き、画用紙を切る。<br/>7 隠す場所に似せて絵の具の使い方を工夫し着色する。</p>   | <p>【人-①】<br/>・ 見付けたことを発表し、クラス全体で考えを共有している。<br/>・ 児童の作品から、場所の模様、質感、色の違いや、絵の具の工夫について気付いている。</p> | <p>【関】（発言、活動の姿）</p>                                    |
|  <p>「燃えるゴミの火マークにぶたがかくれているんだね！」「色と模様を合わせるから、この場所がかくよ。」</p> | <p>「パレットの絵の具にかくれていたよ。」「気がつかなかったな。」「人の形になっているね。」</p> <p>○ 児童のアイデアを認めたり問いかけたりすることで児童に自信をもたせ活動がより促進するようにする。</p>   | <p>【こと-①】<br/>図工室にある物から発想を広げている。<br/>【こと-②】<br/>色を似せるために、既習事項の混色を活用している。</p>                  |  |
|  |  <p>【もの-①】<br/>作品を通して、児童同士の対話が生まれ、お互いにアイデアを出したりアドバイスしたりしながら、考えを深めている。</p> <p>「ここに隠れるのはどうかな？」<br/>「文字が入るようにななめにおいてみたらどう？」</p> |   |  |

|            |  |  |   |
|------------|--|--|---|
|            | <p>8 作品を隠し、写真を撮る。</p> <p>9 作品を探し、よさや面白さを見付け発表する。</p> <p>T「生き物探しツアーに出発。」</p>  <p>T「気に入った生き物を紹介してください。」</p> | <p>【人②】<br/>自分が見付けた作品を紹介したり友達の話の聞いたりしながら、よさや工夫を見付け見方を深めている。</p> <p>「ここにも隠れているよ。」「色が本物に似ていてわからなかったよ。」<br/>「本物と同じように細かい表面の凸凹もあるね。」</p> | <p>・隠す場所に合わせ、絵の具の使い方を試しながら表し方を工夫している。【技】(活動の姿、作品)</p>                 |
| <p>第3時</p> | <p>10 図工ノートに前時に撮った写真を貼り、振り返りを書く。</p> <p>11 前時に撮影した作品の写真を鑑賞し、作品のよさや面白さを見付け発表する。</p>   | <p>○ 前時の写真を全体で見ながら、作者を紹介することで、前時で見付からなかった作品や児童一人一人の思いを共有できるようにする。</p> <p>○ 作品のよさや面白さに気付かせるように児童からの言葉を紹介しながら鑑賞していく。</p>               | <p>・自分の作品や、友達の作品に関心をもって意図や特徴を述べたり書いたりしている。</p> <p>【鑑】(活動の姿・図工ノート)</p> |

(7) 成果と課題

|           |   |
|-----------|---|
| <p>成果</p> | <p>○ つくった生き物と隠す場所を比較する時間を設定したことで、作品と場所の特徴から想像を広げ、色を合わせながら混色や絵の具の表し方を工夫し、場所や物の色や質感の特徴を捉え自分なりのイメージをもつことにつながった。</p> <p>○ 教師が児童の発言を受け取り全体に共有させたことで、見通しをもたせ発想を広げることができた。</p> <p>○ 見る人を意識しながら作品をつくることで、児童の対話が自然に生まれ、面白い場所を探そうとしたり、色や形を工夫しようとしたりするなど、主体的に活動することにつながった。</p> |
| <p>課題</p> | <p>● 児童同士の対話をより活発にするため、意図的に班で相談する場面や、お薦めの作品を紹介し合う場面の設定を工夫する必要がある。</p> <p>● 児童のイメージや発想をより深めるため、具体的な色や質感の違い、特徴に気付かせる視点や投げ掛けについて、更に工夫する必要がある。</p>  |



## VI 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

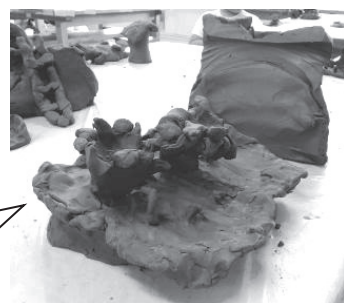
(1) 授業改善を図るための具体的な手だて

ア 「もの」との対話～検証事例（検証授業②「切った形の大かつやく」～  
（粘土用の切り糸を使った、「もの」との対話）

切り糸で切った粘土の形から想像を広げ、立体に表す題材では、個々で思い思いに活動できる大きな粘土（1グループ当たり 18 kg）の準備と切り糸で粘土に関わる十分な時間の確保により、「もの」との対話を充実させた。そのことにより、多様な切り方を試しながらいろいろな形を発見し、切った形を組み合わせながら構想を広げ、自ら表したいものを見付けることにつながった。

児童の構想の広がり

- ① 切り糸で手を上下に動かして切ったら、虹のような形になることを発見した。
- ② 友達の切り方から、細長く棒状に切ることを知り、それを水の表現に生かすことで、虹が噴水から出ているような構想に広げることができた。



題名 「雨上がり にじがでたよ」

イ 「こと」との対話～検証事例（検証授業③「くしゃくしゃ、くるくる、ビリビリ 図工室を変えちゃおう！」～

（場所から広がる、「こと」との対話）

新聞紙の形や質感を感じながら図工室の様子を変えていく題材において、場の様子を変えやすく、造形的な活動に適した場を設定した。図工室の机や椅子の数と配置を工夫したことによって、児童一人一人がより深く場と関わりながら活動を展開することができた。

また、場の様子を変えやすいことが、友達との発想の交流を促し、更に「いつもと違う図工室」で活動することができ、より発想の広がりを見せた。



ウ 「人」との対話～検証事例（検証授業④「こんな秋みつけた」）

（ざこうマイクを使った、「人」との対話）

初めは秋というテーマと友達との対話から、木になったぶどうをつくっていたが、さらに、「私ならぶどうの中身をつくってみます。」という友達のアドバイスを受け発想を広げ、食べる寸前のみずみずしさが現れているような皮むきぶどうをつくることを通して、表したいもののイメージをより深めることができた。



## エ 対話の設定と発想

場所に注目させる、「こと」の対話を取り入れた授業後の児童アンケートでは、「どんなときに新しいことを思い付いたか？」という設問に対し、「つくる場所を見たとき」という回答が一番多かった。教師が意図的に設定した手だてである場所（「こと」との対話）から発想を広げている児童が多かったことが分かった。

上記の他の検証授業後に行った児童アンケートでも、教師が意図的に重点化して取り組んだ対話から発想を思い付いたり、新しいことを思い付いたり、活動を広げることができたと回答する児童が多く、意図的な対話場面の設定が効果的であることが分かった。

### (2) 対話の分類について

指導計画を検討するに当たり、「対話の充実シート」を活用することで、以下について効果が見られた。

- 題材の目標や共通事項を具体化し、学習過程の中に対話を的確に位置付けることができた。
- 「もの・こと」との対話に関する具体的な手だてを工夫したことで、児童が行う「自分との対話」を明確化し、表したいことや表し方を思い付くことにつながった。
- 「人」との対話に関する具体的な手だてを設定したことで、授業の対話場面をより具体的に想定し、新しい発想を思い付くことにつながった。

2 ページの図3「難しさや課題を感じる対話的な学び」についての教員アンケートでは、「児童同士の対話」が課題として多く挙げられている。本研究で開発した「対話の充実シート」を使うことで、児童が「もの・こと」との対話で何を学び、「人」との対話をどのように取り上げるのかを整理することにつながり、課題の解決に役立つことが分かった。

次に、児童が「人」との対話を行う際、自らの考えを整理するために、イメージマップ（V 研究の内容 4 検証授業③参照）やワークシート（V 研究の内容 2 検証授業①参照）を活用した。これらを使うことで、話し合いに共通の方向性をもたせ、視点を明確にすることにつながった。また、イメージマップやワークシートなど、考えを整理するための工夫を行うことで、教師も児童個々の実態把握をすることにつながった。さらに、教員アンケートで多く挙げられた「指導法が分からない」「一斉指導が難しい」という課題に対しても、ワークシートの工夫が効果的であると考えられる。

## 2 今後の課題

対話の設定について、思い付いたことを夢中で表している場面では、人との対話が難しい児童がおり、こうした児童に対しては、状況や内容によっては、活動を停滞させる要因となってしまった。

材料の提示などと同様に、教師が最適なタイミングを見極めて、対話の場面を設定することが重要である。そのタイミングについては、個々の児童の活動内容や状況、発達段階等に合わせる必要があり、その把握を的確に行うため、児童理解を深めていくために、更なる研究を深めていく必要がある。

## 平成 30 年度 教育研究員名簿

### 小学校・図画工作科

| 学 校 名         | 職 名  | 氏 名      |
|---------------|------|----------|
| 中央区立月島第一小学校   | 主任教諭 | 岡 部 哲    |
| 江戸川区立第二葛西小学校  | 主任教諭 | 高 松 み き  |
| 江戸川区立二之江第三小学校 | 主任教諭 | 宇 田 幸 正  |
| 小平市立小平第十五小学校  | 主任教諭 | 北 川 雅 敏  |
| 町田市立小山中央小学校   | 主任教諭 | ◎野 口 敬 子 |

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課  
指導主事 小鍛冶 誠一

平成 30 年度

教育研究員研究報告書  
小学校・図画工作

東京都教育委員会印刷物登録  
平成 30 年度第 135 号

平成 31 年 3 月発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社